

## 第19回雪のラブレター募集(入賞作品)

### 【俳句の部】

賞	最優秀賞
作品	初雪へ二人抜け出す映画館
作者	Akiki
住所	神奈川県
講評	「ネェネェ、イマトイレニイッたらハツユキガスッゴクキレイダッタヨ！」「エッ、ハツユキ！？……デョウカ……」と言うシチュエーションであろう。前から約束していた映画はさほど面白くはないようだ。それよりも夜空から舞い降りる初雪に包まれながら二人で歩きたい。「初雪へ抜け出す」と言うフレーズは、これまでのこの大会作品の中に見た事のない把握である。その新鮮さとリアリティーは、二人の若さと清々しさに思わず微笑んでしまいそうである。上映中の暗さと雪の白さのコントラストがかくし味になっていることも確かである。

賞	優秀賞
作品	定年のあなたへ投げる雪つぶて
作者	楠 晴実
住所	広島県
講評	長年勤めあげた夫への感謝を述べる句はそれこそ溢れていよう。しかしこの句は何も意を述べず、ただ雪玉を投げたという行為ひとつだけである。だがこの事実は、これまでの年月の中の二人それぞれの喜怒哀楽をふり返って余りある。このひとつの雪玉がこれまでとこれからを繋ぐ重要な試金石になるのかもしれない。そしてもしやと思うのだが、遠い昔ふたりが出合った頃、彼の背中に同じように雪玉を投げた大切な思い出がしっかりと残っているのではなからうか。ともあれ、これからのお二人に幸多かれと祈るばかりである。
作品	雪の日の盲導犬は伏せのまま
作者	夏舟
住所	熊本県
講評	私の師の句「盲導犬使徒の目もてリクリスマス」をすぐ思い浮かべた。「雪」と「伏せのまま」のふたつによって、この大会の中心となる「ラブ」が大きく広がって博愛、親愛、慈愛などの精神性をおびてくる。雪が降っているので外に出掛けられない。だから今日は愛犬も静かに座っているだけである、などと読み取ってしまうとそれだけの句になってしまう。大いなる自然のもたらすしづかな「雪」と、そこに生きる「人間」の弱さと、まさに使徒と呼ぶべき「犬」の献心が相いまってこそ、この句の透明な深さを思うべきであろう。

## 第19回雪のラブレター募集(入賞作品)

### 【俳句の部】

賞	佳作
作品	初雪や「今コンビニを曲がる所」
作者	もふもふ
住所	千葉県
講評	彼女(彼)がちょっと遅いので、何かあったのかと電話をする。すると窓の外は初雪。そこに角のコンビニを曲がる彼女の姿が見える。楽しいいつもの夜の始まりである。大昔からつづく「雪」と「コンビニ」という「今」がさりげない話し言葉で生き生きと活写されている。何かを表現するとき、ちょっとした言葉が大きな力を発揮する。
作品	あの人と同じ口紅ささめ雪
作者	ぐれ
住所	愛知県
講評	もしかしたら大きな間違いをしているのかもしれないが、私は所謂トランスジェンダーのひとつの句として読んだ。この句の十七文字のみから汲み取るしかないのだが、この「ささめ雪」が大きな力となっていると言って良い。ささめ雪の句は毎回この大会に沢山寄せられるが、その甘さによってか成功している句は殆んどない。しかしこの句の場合「SASAME」というややひそひそとした語の響きが句の性質を更に魅力的にしている。この句もまた口紅の「赤」(おそらくだが…)と雪の「白」が鮮やかで明解である。
作品	東京にひとりぼっちの雪だるま
作者	志々見
住所	東京都
講評	「東京」そして「ひとりぼっち」と言うと、それだけで昔から歌やドラマ等によって幾度となく描がかれ、これからもつづいてゆくことであろう。大都市が大きく華やかになる事と比例して、そこに住むひとりひとりが少しづつ孤を深めてゆく。東京に雪が降った、それも小さな雪だるまをつくれるほど。故里にいる頃はそれこそ大きな雪だるまを作ったのだがこうして小さな雪だるまを見てるとまるで自分がそこにいるような気がしてくる。静けさ、雪の白さ、なつかしい冷たさ、都市の広さ、故里の顔……。また明日がはじまる。

## 第19回雪のラブレター募集(入賞作品)

### 【俳句の部】

賞	入選
作品	イケメンの先生へ向け雪つぶて
作者	齊藤 浩美
住所	愛知県
作品	恋文を焚く日の朝の牡丹雪
作者	くりこ
住所	鳥取県
作品	さよならのコーヒー冷めて外は雪
作者	アーモンドの花
住所	奈良県
作品	深雪晴スカーレットの帽子買ふ
作者	大坂のアン
住所	大阪府
作品	風花を抜けるチョコレートを持って
作者	ここママはる奈
住所	福岡県
作品	マフラーの長さ分け合う雪の街
作者	メガネチャンネル
住所	静岡県
作品	初恋の人母になるぼたん雪
作者	松田 慶一
住所	兵庫県
作品	風花や昨夜の嘘を知らぬふり
作者	水色
住所	京都府

## 第19回雪のラブレター募集(入賞作品)

### 【俳句の部】

賞	入選
作品	この町に暮らす予感のぼたん雪
作者	金丸知子
住所	神奈川県
作品	雪搔きの息を近づけ父と彼
作者	福永敬子
住所	北海道
作品	雪の街スマホで君を捕まえる
作者	陽歩真
住所	東京都
作品	君に出す葉書初雪滲ませる
作者	一睡
住所	広島県

選者: **大類つとむ氏** (尾花沢市在住。山形県現代俳句協会会長、俳誌「陸」「街」同人)

応募作品数 : 3,385作品